

十和田風力開発株式会社がお届けする

風のおたより

2025年7月

Vol.3



ごあいさつ

(仮称)惣辺奥瀬風力発電事業の事業地の近隣市町村である十和田市にお住いの皆さんへ向けて、「風のおたより」をお届けいたします。

本おたよりでは、地球温暖化や再生可能エネルギー、(仮称)惣辺奥瀬風力発電事業の背景について取り上げるほか、これまで寄せられた懸念やご質問に対する事業者の取り組みや方針についてもお伝えしてまいります。座談会では、各号のテーマに関係する方をお招きし、テーマに即した情報

をお届けいたします。

なお、現在検討中の事業計画につきましては、今後実施予定の第4回中間報告会(時期未定)にて詳しく報告させていただきます。また、本おたよりの内容に関するご感想やご意見は、裏面に記載の弊社HP内にある「お問い合わせフォーム」へお寄せいただけますと幸いです。

いただいたご意見は、次回以降のおたよりや今後の報告会の参考とさせていただきます。

今回の内容

- ①テーマの関係者による座談会 P.2,3
「惣辺放牧場の歴史と展望
～惣辺奥瀬風力発電事業と地域との共存～」
- ②座談会に関する参考情報 P.4
- ③(仮称)惣辺奥瀬風力発電事業概要 P.4

～惣辺奥瀬風力発電事業と 地域との共存～



今回参加いただいた皆様

- ・下佐 賢悦さん
(惣辺牧野畜産農業協同組合 代表理事組合長)
- ・久保 英美さん
(十和田市営放牧場放牧利用組合 組合長)



司会 本日は『惣辺放牧場の歴史と展望 ～惣辺奥瀬風力発電事業と地域との共存～』をテーマに座談会を行います。この座談会を通じて、地域の現状や課題等を確認し、併せて風力発電事業と地域との共存の可能性を探りたいと思います。

はじめに、惣辺放牧場の歴史と現状を教えてくださいいただけますか？

下佐 私から惣辺放牧場^(※写真1)の歴史の一端を紹介します。私も惣辺牧野畜産農協は昭和26年の設立です。その後、昭和46年に放牧場が開設され、現在は市有地と併せて270ha余の放牧場となっています。更に、市では各種補助金事業で牧草地や道路の整備、牧場広場や遊歩道を作りました。近年は放牧牛が減少して将来の牧場の維持管理が心配です。また、せっかく整備したキャンプ場^(※写真2)や遊歩道は利用されておらず、寂しいですね。

飼料高騰が経営を圧迫

司会 次に、畜産農家の現状を教えてくださいいただけますか？

久保 数年前に比べて、子牛価格の下落は痛いですが、それ以前に、飼料などがあまりにも高すぎて、経営を圧迫している状況です。^(※別表)牛の暑さ対策にも苦労しており、以前は、牛舎の中に扇風機が2、3個で

足りていたものが、4個も5個も置かなければならない状態です。

司会 畜産農家の課題の一端を知ることができました。

耕畜連携で持続性を

司会 十和田市での農業の特色として、米や野菜と畜産を組み合わせた経営が行われていると伺っております。皆さんはどのような農業をされていますか。

久保 私の農地は中山間地にあり、田んぼの面積は少ないです。そのため、収益性の面から、田んぼをやめ、草地にしました。ナガイモやキュウリなども作りましたが、値段的に不安定な部分もあり、最終的に繁殖牛飼育にしました。

下佐 農業は大変ですが、十和田市は農業にはすごく良い環境だと思います。耕畜連携という名のもとに、畜産だけでなく、水田・畑作・野菜の三部門が地域全体で取り組まれています。私は稲ワラを畜産農家にあげて、畜産農家から堆肥をいただきナガイモを栽培しています。小麦や大豆との輪作をしており、水田と併せて、耕畜連携を進めています。

久保 畜産農家にしても堆



下佐氏



肥の処理という問題があり、連携は必要ですね。化学肥料に頼っていると、後で農作物にしわ寄せがくる気がします。

司会 耕畜連携が、作物の持続的かつ安定的な収穫に寄与することを理解しました。

地域との共存を進める

司会 次に事業者へ伺います。惣辺地区を事業地に選定した理由をお話してください。

事業者 主な選定理由として、①風況の良さ②風車等の輸送の可否③電力会社の鉄塔への接続の可否の3点があげられます。事業区域には牧場、国有林、保安林が含まれておりますが、牧場への設置については、日本風力開発グループで、これまでに牧場内での風力発電所建設の実績があり、その経験から牧場や牛への悪影響は見られておりません。また、風車の影が、牛にとって夏場の暑さをしのぐ助けとなるなど、設置によるメリットも確認しております。また、国有林や保安林については、関係法令を適切に遵守することにより、地域環境との調和が可能であると考え、これらを総合的に考慮の上、本事業地を選定しました。

司会 本事業に賛成の声がある一方、景観や観光資源、猛禽類の観点等から事業を懸念する声も上がっているようですが、いかがでしょうか。

事業者 ご懸念の声は真摯に受け止めております。景観や観光資源については、主要な眺望点や特A級観光資源の十和田湖・奥入瀬渓流の重要性を弊社としても十分に認識し、配慮いたします。また、猛禽類については、国の基準に則り、猛禽類に配慮した計画を検討しております。青森県の条例「青森県自然・地域と再生可能エネルギーとの共生に関する条例」に準拠しながら、報告会等を通じて具体的な地域貢献策を提示するとともに、事業計画を丁寧に説明し、地域に必要とされる事業の実現を目指して参ります。

維持管理しやすく改善を

司会 風力開発に絡んで、事業者に期待することはありますか。

久保 牧場の周りのバラ線を春と秋に上げ下げしていますが、牧場が広いため作業が大変です。この作業が無くなる、もしくは簡単にできるようになればいいですね。

下佐 時の流れと共に、もっと維持管理をしやすくするように改善をすべきだと思います。例えば、牧場の外周に風車を建てれば管理用道路

が付き、牛の管理を軽トラックで行えるようになると思います。

久保 牧場の区画によって、日影が多い所と少ない所があり、牛の暑さ対策を期待したいですね。

下佐 植栽等で日陰を作るなど、対策が絶対に必要だと思います。

久保 暑いと牛の受胎率は下がります。放牧すると涼しい所へ行けるので、受胎率が上がる可能性があります。また、人気のある雄牛の種は全国で引き合いが強く、欲しくても手に入りにくいという状況を改善できればいいですね。

下佐 現状の市道958号線（※写真3）は道幅が狭く、カーブも多くて、牛運搬時のトラックの往来が大変です。これら道路の拡幅整備をして畜産農家はもとより、一般市民も安心して通行できる道路にして欲しいですね。



牧場の環境づくりに期待

司会 次に、惣辺放牧場の将来の展望や在り方について伺います。

久保 地元の獣医さんが高齢化等で人数が足りなく、畜産農家は困っています。牛の分娩は曜日に関係なくあり、大変です。

下佐 先の獣医さんの話や、畜産農家が期待している「一流雄牛の種が欲しい」に答えるためにも十和田市独自の組織が必要だと思います。北里大学の先生などを交えて、惣辺放牧場を中心に運営できたら嬉しいですね。また、市民が安心して牧場で牛を見ることが出来て、キャンプ場等で遊べる環境づくりを進めたいですね。

司会 本日は貴重なお話をありがとうございました。惣辺放牧場の課題等を確認し、そして風力発電事業との共存の可能性について、多くの示唆をいただきました。「風のおたより」を読んでいただいた十和田市の皆様が、畜産経営等の現状や風力発電事業との共生について知っていただく機会となれば幸いです。

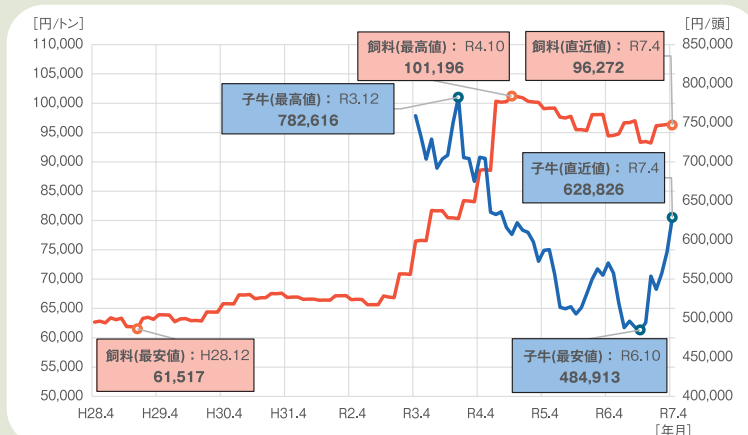
※別表～※写真については裏面の参考情報をご参照ください

《参考情報》

※別表

飼料および子牛価格の変遷

集計期間中の飼料価格※は、最安値が61,517円/トン、最高値が101,196円/トンです。直近では96,272円/トンとなり、最安値時と比較すると約1.6倍に上昇しています。一方、子牛価格※は、最高値が782,616円/頭、最安値が484,913円/頭です。直近では約628,826円/頭となり、最高値時と比較すると約0.8倍に下落しています。



※飼料価格は全畜種加重平均値

※子牛価格は青森県家畜市場のセリ市場価格

出典：・農林水産庁 過去の調査結果 飼料月報（概要）平成28年4月～令和7年4月まで参照
https://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/lin/l_siryo/cyosa/kako.html
 ・青森県家畜市場 市場情報 令和3～7年度まで参照
<http://www.aomoriken-kachikushijou.jp/index.html>

惣辺放牧場関連画像

※写真1



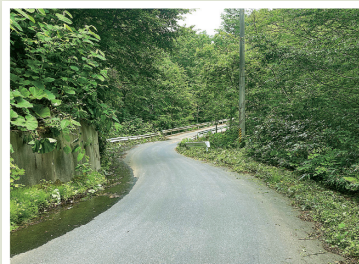
・惣辺放牧場に放牧中の牛の群れ

※写真2



・キャンプ場施設（炊事棟）

※写真3



・惣辺放牧場へ続く市道958号線

（仮称）惣辺奥瀬風力発電事業概要

①計画概要

風力発電所総出力：最大 130,200kW

風力発電機出力：4,200kW 予定

設置予定基数：33基

②事業経緯

2018年：計画開始（事前調査および風況調査準備）

2019年：風況観測開始（風況観測塔設置）

2020年：配慮書縦覧（環境影響評価法に基づく）

2021年：方法書縦覧・住民説明会実施（環境影響評価法に基づく）

2022年：第1回中間報告会を開催・現況調査（動植物・景観等）実施

2023年：第2回中間報告会を開催

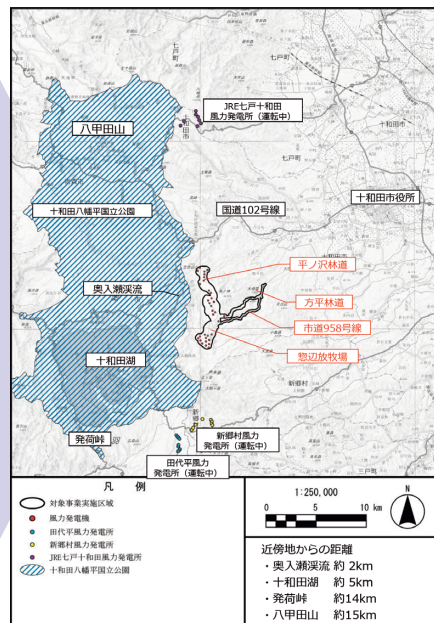
現況調査を踏まえ周辺環境への影響を予測評価

2024年：第3回中間報告会を開催・風況観測完了

※第3回中間報告会（2024.2）時点の計画です。

現在、県共生条例等を踏まえて事業計画を多角的（周辺環境への配慮等）に検討しております。

位置図



発行 発行 発行

十和田風力開発株式会社

〒034-0012 青森県十和田市東一番町4-37

TEL 0176-58-0090

HP（お問い合わせ先）：<https://towadawindpower.jp/>



※ご意見や感想につきましては、HPのお問い合わせまでお願いいたします。
 なお、お問い合わせフォームへの正確な情報にご協力願います。